

東海道四十二番目の橋。

東海道五十三次

桑名くいな

七里の海路を経て桑名宿へ。

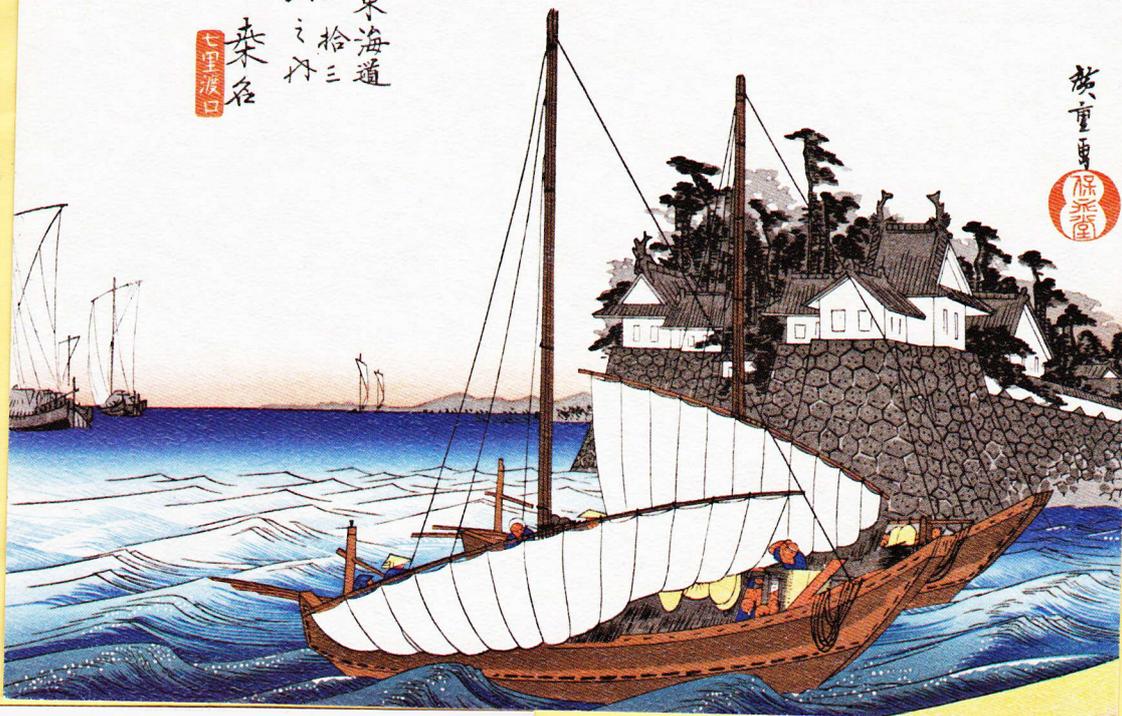
宮と同一く、ここもたいへんにうわていた。
堀に沿った町並みは、泉鏡花の歌行燈に
さながらの趣。
名物の時雨はまぐりの店も多し。

↑見どころ！天武天皇、天武天皇が壬申の乱の時、
桑名にとどまられたことに由来する神社。
☆見櫓、ハシゴと半鐘を復元。
このあたりは矢田の立場で
古い町並み。

常夜灯



旅重良 保栄堂



東海道
五拾三
次

桑名

七里渡り

広重の絵は船が桑名の
渡し場へつたところ。海中
からそびえ立つ桑名城が
この地のシンボルである。
いまでは城にかわって大
きき水門が幅をきかせ
ている。広重の絵の波を
見れば、小さな船はかぎり
揺れている模様。七里の渡
しを避けて、
佐屋街道から三里の
渡しを渡り、旅人が
みかつたといつのも
うなずける。

渡し場の西には高級料理旅館
の山月(船番所、船本陣跡、河屋跡)
と船津屋(大塚本陣跡)がならんでる。
渡し場跡から東海道は南にのびてる。
船合所、伝馬問屋、丹羽本陣ならん
でいたか、いまは表示碑のみかたててる。
平成三年に修景がなされ、路面は博物館
前まで石畳風。

堀り割りの美しい風景。

